

特59

924

美勇水戸傳全

松延堂藏版



091971-001-2

特59-924

[繪本]

松延堂

M17-18

DBP-0458





大友若菜姫



美勇

少衛侍

甲斐在極元



巴蛇捕蝦蟆九郎

杖ハ津久井縣の山
 家そ色を以て我
 慢院を殺害久保山
 は危難の折蝦蟆
 九郎は助けらま却
 て思を仇じて報す

女田樂棧



義賊の長尾放周
 馬弘行ハ蝦蟆の妖
 術を以て不義の賊
 室ハ貪れども貪賤
 の患苦を救い味方
 を集め一たり

自來也

三ノ



父蝶兵衛見世の
 の為無実の罪を得
 るて塔吉郎殿を塔へ懸
 と捕らひ父の罪を許すとの
 命有難吉神は祈念を
 年僅十五にして殿の栢
 も寺の山門を叩きし
 也其の徳業いかに



城崩戒光寺の鬼
 て力人よすいきけ
 或夜坊中へ鬼出て
 人と切らせると自
 く飛振り鬼の角を
 掴む角折て手残る

寺扈従白菊丸



賊首大蛇丸の更科
家の息女田毎姫のあ
てやめち 志願のあ
るは迷ひ 一其志
姫と手に入ん せと
と夜み心願 せと
とめつた



為朝の妻白綾の坑
紫の軍は身をつとめ請
岐まありちの武藤太が
訴人まで為朝伊豆の流
るる後石山寺に武藤太
を捕五鉢へ釘を打て
責殺せ



神河小三郎の美真
の張本にて三州庚申山
に住りて孫原三太郎
と云ふ者孫原三太郎の
殺害せり其怨念
一疋の古猿と化して小
三郎討つと頼む依て其
志を懸て七念時



日向の産武術修行
て箱根原倉の温
泉山女とて
四國の渡りハ悪魚
を射とめ又下野小
室とて狼を引さく
等大丈夫なり



盗賊の張本とて天
城の豪士平平貞を
エ門のむととせり
大金を奪取立退
時山道ニ切腹と誓
ひ山深く逃入り

白木駒吉



六木杖之助則房

耶魔の井翁の妖
術を得て亡父満祐
の注意を信ずるも
盗賊のくさし成
て飛行自在せり
稱して天狗次郎若
羅松とせり

美

義仲の公遠頼家の
妖術と請怪呉と云
一金を集ん為阿修
羅丸と名乗頼朝と
討恨と晴んとせし
ぐ却て止まざり



清水冠者義高

外面女菩薩内心
如夜叉の金言まき
裁色を以て人を迷じ
金銀を掠取命を断
と其教を知す呉名
して姐妃といふ

賤の女於百



菊池家の臣鳥山豊
後の男よりて身命
と誓毛よりも輕
ん王家を覗ふ若
菜姫を伐んと千辛
万苦せしといふ

鳥山秋作照忠



名古屋山三不破伴
作此三人を森の三
勇士と云ふる夜銘
々の心とくし見
んと古寺へかまて
妖怪を見しとぞ



高木午之助

東國諸侯の晩近也
幼時或夜深夜獄刑
の首級扇をく
こくさせさく命せ
らるくは辞せ候
如是の剛けつこ

原田辨之助



女勲助ハ神刀徳治
の手下にして無双の美
男と身も女の大まやう
色香を以て諸人を
蕩りし財宝を果む終
は長崎丸山に討手さ
引受下り虎口を逃れ
其行可まふ



桂山の土知新光は恨
みあつて黒雲皇子
の術を授け頼光ま
ごとく種々其すま
鬼守留をよと折く桂
明神の社へ會ひて
謀叛の密談をなす



平良門を父將門
の悪意を継武者修行
の身をやつし諸國を
廻り味方を集めり
や或夜桂の明神にて
黒雲皇子に出會ひ味
を互に誓ひて翌夜軍
法を教へたる事





生質直つらごもが寺
 入せり或日國主里
 見此寺に愁虎王の
 容色に懸想し小性
 召す後ついでま
 家と騒動せむ

虎王丸



由縁くかり優美
 好色よて表ふ安とる
 ちり内悪無道の曲考
 ちり其身危難の時ハ
 岩藤の天群蝶と化
 して身まよとし危急
 小丁時代鏡に見え

里見家の臣へ同盟
の士と尋んと偏厩
の折柄山中に於て
手負猪ととりま
り一衆人の眼を驚
かせしとるり



天田小文吾悌順

君色を愛して佞人進
國家乱忠臣顯う鉄
之助が捕遊せし嵐
も其鳴る人忠とい
へども争刑を免
る事を得ん



松前鉄之助

美勇

犬山道節忠興

道策の嫡子、主家の仇、定正と打んと、仮に修験者、身とろく、道火の術を行ふ、九塚山、妹の仇、左母二郎を討つ



明治十七年八月廿三日御届

編輯兼 出版人 大西庄之助
日本橋區松島町一番地

定價拾錢

